



# やらまいか

クラブテーマ : 参加して、行動して、ロータリーを楽しむ Let's Enjoy Rotary

会長/大木健市 幹事/林 博宣 会報委員会/中西弘徳・宇野秀幸 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所  
 事務局/豊川市豊川町辺通 44 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第16回 通算1500回 平成29年10月31日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	10/17 修正出席率
		66名	49名	79%	90.3%

ゲスト:(なし) ビジター:(なし)

## ★会長あいさつ

### 大木健市会長



こんにちは。台風が去り、朝夕冷え込むようになりました。

先週は、親睦委員会の皆さんのお骨折

りにより、初秋の京都を旅して参りました。紅葉はまだ早い様でしたが、京都は何かしっとり落ち着いた感じがして、心がほんわかして帰って参りました。

25日には、大沢さんの奥様のご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

紅葉や銀杏の葉が黄色く色づき始めると秋の風情やおもむきが感じられます。思わず童謡の「もみじ」の歌を思い出し口ずさんでまいります。一番は、山の麓で楓やつたが赤や黄色に色づき、緑色の松の周りに彩りを添えていて、その様子が着物の裾模様の様で、とても美しいと歌っています。紅葉の美しい山は、昔から人々の心を魅了して来たようです。

「うらを見せ、表を見せて散る紅葉」「焚くほどは風がもてくる落ち葉かな」という歌もあります。意味としては、良いところも、悪いところも、隠さず見せて来たから、私はもう思い残すことはない。あとは自然に帰って散ってゆくだけです。ということです。これは、18歳で出家し、生涯寺を構えず清貧の思想を貫いた江戸時代末の禅僧“良寛”の歌です。子ども達とまり付きやかくれんぼをして遊び、

多くの逸話を残し、子どもから大人まで広く親しまれました。良寛の辞世の句とされている歌ですが、なぜか悲壮感がありません。なかなかこの良寛の境地にはなれませんが、もの寂しい秋の季節だからこそ、今一度、自分の姿勢を振り返ってみるのも良いかもしれません。

明日からは11月です。急な気温低下に充分にご注意されますようお願い申し上げます。

## ★幹事報告

### 林 博宣幹事

例会臨時変更のお知らせ  
 ロータリー適用相場の変更について

## ★委員会報告

雑誌広報委員会 (原田委員長)  
 ロータリーの友10月号の紹介

## ★新入会員スピーチ

### 伊藤和典会員



こんにちは。まず初めに、私の仕事の話をしてします。学校を卒業してから、30年ほど明石産業という会社に在籍をしております。

取扱品目は、ガソリンや油を多く取り扱っている会社でしたが、入社してすぐにLPガスの方に行きなさいと言われてました。入社当時、会社がLPガスを取り扱っていることを全く知りませんでした。LPガスに携わるにあたり、国家試験をいくつか取る様に言われ

ました。高圧ガスの取締法、ガス事業法などです。コンビナートも高圧ガス取締法により管理監督されている訳です。ガス事業法は、都市ガスを取り締まる法です。ガスの配管工事の資格も取りました。法律もあり、化学の勉強が多かったです。30年間のうち、最初は肉体労働が主な作業で現場を走り回っていました。10年ほどして、営業職をやるような仕事をしていました。協会に出向して、青年部会で愛知県内を色々と役柄で出掛けておりました。勉強のために日本国内も色々と出張もしました。協会関係などで、年に10回ほど旅に出かける機会もありました。30年間サラリーマンをして、50歳を過ぎて自分で人材派遣の商売を始めました。

今日のスピーチのテーマを何にしようかと考えまして食文化の話をして。文化を辞書で引きますと、一つは文明開化、もう一つは人間の営みによって作られたものとありました。スポーツも、食も、宗教も文化なのです。

食レポ的な形で、私の好きな食べ物を紹介します。うどん、蕎麦、牛肉、かに、鰻などです。うどんと蕎麦は日本の食べ物かと思いますが違います。3千年前に中国から渡って来たそうです。蕎麦の種は、過酷な条件でも残っていく能力があるそうです。

お肉のお店、カニのお店、鰻のお店、すべて、私の感想です。それぞれのお店に行かれる時に参考にして頂ければと思います。ご清聴ありがとうございます。

## ★ロータリー情報

### 「10月24日は世界ポリオデー」



世界は、過去およそ30年にわたりポリオ根絶に向けて大きな前進を果たしてきました。

ユニセフ（国連児童基金）もその一員である「世界ポリオ根絶のためのイニシアチブ」（GPEI：Global Polio Eradication Initiative）が立ち上がった1988年当時と比べ、ポリオ症例は99%減少しました。現在でも症例が確認されているのは、パキスタン、

アフガニスタン、ナイジェリアの3カ国の、非常にアクセスが難しい遠隔地に限られています。

10月24日の「世界ポリオデー」に際し、これまでにポリオ根絶を実現した国々の大いなる進歩を強調し、今後数カ月のうちにポリオが根絶され、すべての子どもが「ポリオのない世界」で暮らせるようにすることが現実的になっていることを歓迎する一方で、まだ残されている課題にも目を向けなければなりません。

世界はいま、ポリオ根絶を実現する機会に、かつてないほど近づいています。今年確認されている野生株ポリオウイルスによる症例は、上記3カ国でわずか27件です。GPEIが立ち上がった28年前、世界125カ国で35万人の子どもたちにおいてポリオの症例が確認されていました。1988年以降、25億人の子どもたちがポリオの予防接種を受け、2016年年初からの症例はわずか27件と、この28年間で99%もの減少を実現しています。この間、予防接種活動の前線でワクチンを届けた保健員は、2,000万人に上りました。

ユニセフは、2015年だけでも13億回分のポリオワクチンを調達し、2億6,535万人の子どもたちが、ポリオ根絶キャンペーンによって予防接種を受けました。こうした世界的な取り組みによって、1,500万人以上の子どもたちがポリオによる麻痺から守られました。

各国政府とWHO、ロータリー・インターナショナル、アメリカ疾病予防管理センター（CDC）、ユニセフによる世界ポリオ根絶のためのイニシアチブは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団やイスラム開発銀行、そのほかの官民セクターからの支援を受けて活動しています。

## ★ニコニコボックス

太田 稔会員 遠征コンペで優勝して  
小野喜明会員 所要にて途中退席します  
奥村雅一会員 //

会報担当：中西弘徳会員・宇野秀幸会員